【高等学校用】

令和７年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている　C：やや不十分である
B：おおむね達成できている　D：不十分である

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校定時制課程

1　前年度 評価結果の概要（簡潔に）	・いじめの覚知・認知がゼロで、穏やかで過ごしやすい環境になっている。しかし、一部に私生活の乱れや進路意識の希薄な生徒が一定数いる。今後はより深く豊かなコミュニケーション能力や人間関係の構築、進路意識の向上につながる声掛けや導きを行いたい。 ・Teamsを活用して課題や連絡の配信を行ったことで、アンケート回収や、生徒からの質問や相談を受けやすくなった面があった。今後もICTの利活用を通して生徒とのコミュニケーションにつなげたい。ホームページの内容や更新を工夫し、広報活動の一助としたい。
2　SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	【全定共通学校目標】幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材（人財）を育成する。 【定時制学校目標】北部地区唯一の商業科定時制高校としての存在意義を明確に持ち、生徒一人ひとりのニーズに対応した普通教科の深い学びとビジネス教育を通して、職業人として必要な豊かな人間性を育み、幅広い知識と教養を身に付け、常に当事者意識を有し、自ら考え行動できる人材を育成する。

3　スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	①　礼節を重んじ人を思いやる心を持ち、本校での学びに必要な学力を有する生徒を求めます。 ②　ビジネスを学ぶことに興味・関心があり、専門的な知識・技能の修得や資格取 得に意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。 ③　世の中の激しい変化に対応できるように自らを変え、成長するため、根気強く努力することができる生徒を求めます。 ④　生徒会活動や部活動等を通して、学校の活性化に寄与することを期待できる生徒を求めます。	①　知識・技能を活用する実践力を身に付けるため、検定資格取得の機会を設けます。 ②　教育講演会や各教科・科目の授業において幅広く外部人材を活用します。 ③　探究活動を通じて、意欲的に地域について学び、地域行事や奉仕活動に参加します。 ④　義務教育段階の学習について学び直しの機会を設けます。	①　様々な経済活動で役に立つ確かな知識や技能を身に付け、活用できる実践力を育成します。 ②　課題解決に必要な情報収集能力と情報分析能力を育成します。 ③　自らの適性と世の中の動きを正確に理解し、自ら判断して行動する力を育成します。 ④　自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳心を養成します。

4　本年度の重点目標
①　高校生としての生活習慣の確立 夜間定時制に学ぶ学生としての適正な生活習慣を確立し、学びに対する向上心を持ち続ける学校集団の形成を目指す。 ②　学力向上 日頃の授業において常に、「わかる授業」、「考える力（論理的思考力）をつける授業」を実践するとともに個人の能力に応じた的確で細やかな到達度目標を設定することで、学習意欲を駆り立て、基礎学力向上を図る。 ③　商業教育の充実 商業を学ぶ者として差別化できるだけの専門的な知識・技能の習得を目指し、設定した目標の資格取得に全力を挙げて取り組む。また、「ホスピタリティマインド」を会得し、利他の心を育み、職業人としての豊かな人間性を磨き上げる。 ④　食育の充実 日頃の給食指導や食育に関する指導により望ましい食習慣を養わせ、心身ともに健康な生徒の育成を図る。

5　重点取組内容・成果指標

中間評価　最終評価

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○基礎的な文字力・計算力の定着	○文字カテスト、計算カテストを年間各７回実施（前期4回、後期3回） ・文字カテスト　昨年度は75.6%だった正答率を、今年度は80%以上を目標に取り組む。	・文字カテストについては3級レベルを中心に漢字の意味を理解し、正しく書き、会話や文章の中で適切に使う能力を育成する。 ・計算カテストについては個別指導も含め、全学年、基礎的数学技能を身に付けられるように指導する。 ・今年度は昨年度と同様に4限目に実施時間を設定する。また、計画的な学習習慣の定着を目指す。	B	・文字カテスト、計算カテストともに当初の計画通りに実施できている。 ・アンケートでは、約91%の生徒が基礎的な力がついてきたと回答しているが、家庭学習の習慣化には至っていない。	A	・全7回の文字カテストの受験率は93.2%で、正解率は85.1%であった。どちらも昨年度より大幅に上回った。課題への取り組みも良好で、前向きに努力する生徒が増えた。	A	・社会に出てから必要な基礎学力の向上に、テスト前や事前学習の習慣確立に良い取り組みであり、続けていってよい。 ・個々の学力、目標に合わせて問題をいくつか準備して個々に対応すればさらに良いと思う。	教務主任 各教科主任 各担任
●心の教育	●基本的生活習慣の確立を目指す。 アルバイトの勤務時間の見直しや睡眠時間の確保等を考え、学校生活がやりやすい環境づくりをする ○挨拶等のコミュニケーション能力の向上を目指す。	○自然とあいさつを交わせる生徒80%以上	・昼下校や学校生活の中で、教員側から挨拶や声掛けを積極的に行うことで人とのふれあいの楽しさを伝え、生徒間に浸透させる。	B	・アンケートでは、、休学者を除く22名全員が、学校はルールやマナーを守るよう指導を行っていると答え、気持ちの良い挨拶ができる生徒が増加している。 ・今後も教職員が生徒一人ひとりに積極的に声掛けを行い、気持ちの良い挨拶ができる生徒をさらに増やし、心豊かな生徒を育成していく。	B	・挨拶やマナーが大切だと考えている生徒が多いことがアンケートから分かった。校内では挨拶がよくできている。マナー面でも問題がなく成長していると思われる。今後は、校外でも実践できる生徒を増やすことが課題である。	B	・生徒の成長は本当に感じます。挨拶やマナーについては、個人の性格的なものもあると思いますが、できている人とできない人の個人差があります。引き続きご指導をお願いします。	生徒指導主事 保健主事 教育相談係 各担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ○生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など豊かな心を身に付ける教育活動	○いじめの防止への取り組みについて組織的に対応できていると回答する職員90%以上	・いじめ防止基本方針について、保護者へ周知する。 ・いじめ対応に対する研修・会議を2回以上実施する。 ・生徒情報交換会を毎月実施し、職員間で情報共有を行う。	B	・学校生活アンケート及びいじめに関する保護者アンケートについて、職員研修、生徒情報交換会等、計画どおりに実施できている。アンケートでは、いじめを覚知する回答は「ゼロ」であった。職員向けアンケートでは100%の職員がいじめ防止への取り組みについて組織的に対応できていると回答している。今後も気を引き締めて取り組んでいく。	A	・いじめと覚知されるような案件はなく平和に過ごせた一年だった。今年度は学校行事等でクラスや他の学年との親睦を図ることができ、校内での会話が増えたと思える。	A	・学校の雰囲気づくりが成功していると思います。 ・学校行事における工夫がみられる。 ・現状を評価する。	生徒指導主事 保健主事 教育相談係 各担任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○給食の喫食率の向上（75%以上）	・献立表・食育たより等を発行・掲示し、食習慣の大切さについて積極的に情報を提供する。 ・教科担当者と連携して、食と健康に関する内容を取り扱い、指導する。	B	・食育講話、おにぎりアクションの実施、献立表や食育だよりの定期的な発行・提示はできている。アンケートでは全生徒が、学校は食育指導を行い、栄養や規則正しい食事が健康管理に大切なことを理解させるように努めていると評価しているが、望ましい食習慣の確立には至っていないものが多い。	B	・食育講話、おにぎりアクションといった行事では、生徒が健康な生活を送るために食の大切さを改めて知ることができた。また、世界の食糧事情や大消費など学ぶ良い機会となった。しかし、生徒の望ましい食習慣の確立については個人差があり、不十分な生徒も少なくない。	B	・学校栄養士の方を中心に講話や様々なイベントの開催、努力されていることに敬意を表します。 ・知識理解は確実に進んだと思います。しかし、個々の食習慣の確立は家庭生活の影響が強くなかなか難しい課題だと思います。	学校栄養職員 保健主事 養護教諭 保健体育科教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（1ヶ月80時間以下）の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・学校閉庁日を設定する。 ・出退勤管理システムを定期的に点検し、定時出退勤を呼びかける。	A	・学校閉庁期間を8月8日から8月15日まで実施した。長時間勤務になっている職員は「ゼロ」であり、定時出勤、退勤を呼び掛けており目標は概ね達成できている。今後も継続できるように取り組んでいく。	A	・学校閉庁日の設定、定時出勤・退勤、年休取得といずれも目標を達成できた。次年度も引き続き業務改善に努め、継続していきたい。	A	・現状を評価する。	管理職
●特別支援教育の充実	●特別支援教育に関する教員の意識の向上	●障害特性を理解し、個々の発達課題について適切な把握及び対応を行うことができる。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・生徒の情報交換会の開催、授業担当者だけでなく教員全員で情報を共有する。	B	・生徒の情報交換会は全職員で定期的に開催できており、職員間での情報共有はできている。	B	・特別支援教育については、生徒の情報交換会の開催、特別支援教育の研修会の実施など最低限の取り組みは行えた。次年度は、長期欠席者のうち、学習意欲を持ちながら病気やけが等で出席できない生徒への支援について検討していきたい。	B	・多様性の時代、インクルーシブ教育、大変だと思いますが、しっかり進めてください。	管理職 養護教諭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価 進捗度（評価）	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言	主な担当者
○（独自評価項目・任意）	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合100%以上 ★県外からの入学者数1人以上	・地域・企業等と連携した学校運営を行う。 ・学校ホームページ等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。 ・受験生向け説明会において広報活動に努める。	B	・学校説明会では、個人相談を受けることも多く、本校への関心・期待の高さがうかがえる。アンケートでは、自分の学校を中学生に勧めることができる生徒は約95%、保護者及び職員は100%であった。HPの活用は、まだ不十分であり、課題である。	B	・地域・企業等との連携した学校運営は、次年度以降への継続的な課題で、生徒の在学中の就労先の開拓等をさらに進めてきたい。広報活動については、定時制の学校生活等を引き続きHPに上げ、中学校等へ定時制HPの存在をアピールしていきたい。	B	・夜間定時制のため地域や企業を巻き込むのは難しいと思うが、生徒のアルバイト先等に協力をいただくことはできないのだろうか。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒・保護者・職員がほぼ100%という現状を評価します。	管理職
○（独自評価項目・任意）	◎職業観・勤労観の育成 ○キャリア教育の充実と希望進路の実現	○アルバイトの就労率70%以上 ○アルバイト先の訪問を実施し、責任者との情報交換を行う。また、生徒の働いている状況等について観察する。 ○卒業予定者の希望進路決定率100%	・アルバイトを奨励しつつ、学業を優先した教育を行う。 ・生徒・保護者・学校の情報共有を密にし生徒の指導に生かす。 ・1～3年生についてはキャリア・パスポート活用の充実を目指す。	B	・夏休み以降1年生もアルバイトを始める生徒が多くなり、アルバイトの就労率は約77%まで上昇している。 ・卒業生4名の進路状況は1名が大学進学、1名がアルバイト先で社員登用の予定、1名が大学入試に向けて勉強中、1名が上京しアルバイト等で働く予定である。	B	・アルバイト就業率は75%前後で推移している。アルバイト就業によってマナーの向上にも繋がっており、職業観の育成ができている。 ・卒業生4名の進路状況は1名が大学進学、1名がアルバイト先で社員登用の予定、1名が大学入試に向けて勉強中、1名が上京しアルバイト等で働く予定である。	B	・進路指導の充実は、定時制において大きな課題だと思います。将来に夢や希望を持てる生徒が一人でも多くなるように尽力してください。	進路指導主事

●…県共通　○…学校独自　◎…志と誇りを高める教育　★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6　総合評価・ 次年度への展望　（簡潔に）	・学校の様子は、落ち着きがあり穏やかで過ごしやすい環境になっている。ゲームやスマートフォンの長時間利用で昼夜逆転の生活となり継続的な登校ができない生徒や進路意識の希薄な生徒が一定数いる。今後は、保護者との連携をさらに強め、学校外での過ごし方についてもかかわっていく必要があると思われる。 ・いじめ等の相談は1件もなく、年間3回実施した学校生活アンケートでも「いじめにあったり、見たり聞いたりした」者は、生徒、保護者ともに「ゼロ」であった。また学年を問わず、学校での楽しみに「友人」と答えた生徒が多く、コミュニケーションを楽しめる生徒が増加した。今後はさらにコミュニケーション能力を向上させるために、次年度も生徒会行事や定通体育大会のための部活動など、生徒間のコミュニケーションの機会を設定していきたい。 ・ICTの利活用については、今年度からeメッセージ使ったアンケートや出欠連絡等に変更となり、生徒の登録は全員が行えスムーズな運用ができたが、保護者については登録が徹底できずアンケートの回収に時間がかかり、紙媒体と併用することも多かった。次年度は保護者も含めて登録を徹底し、システムをさらに有効に活用し業務改善につなげたい。